

千葉歴史の散歩道

千葉県立安房南高等学校 旧第一校舎の魅力と歴史

千葉県教育庁教育振興部文化財課文化財主事 ^{しば}柴 ^{みはる}美春



館山の青い空を背景に、優しく映えるピンク色の校舎。千葉県立安房南高等学校の旧第一校舎は、90年以上、この地の人々の目を楽しませてきた歴史ある建造物である。

木造2階建てのこの建物は、女学校の校舎として、昭和5（1930）年に竣工した。左右対称に伸びる美しい校舎には、窓、扉、階段といった内装から、玄関先の外壁にいたるまで、あらゆるところに正方形やダイヤ型の幾何学模様が施されている。これは、典型的なアール・デコ様式の意匠である。1925年のパリ万博で芽吹いたアール・デコの潮流が、わずか数年のうちに、遠い日本の館山の地にまで流れ込んできていたのだ。

しかしながら、本校舎はただの洋風建築というわけでもない。建築の基盤となっているのは、日本古来の木造建築技法であり、



玄関脇のダイヤ型飾り棧

そこに人工石やレンガといった欧米由来の建築要素が巧みに組み合わせられている。まさに、昭和初期の建築技術を今に伝える貴重な文化財である。怪我をしないよう丸く面取りされた階段を見ると、女学生たちに対する、設計者の優しい心遣いを感じられる。



県立安房南高等学校旧第一校舎 外観

ここで学んだ多くの女学生にとって、かわいらしいこの学び舎は、かつての憧れの景色であり、青春時代を過ごした忘れられない思い出の景色であることだろう。平成20（2008）年の統合によりこの校舎は使用されなくなったが、これから先も卒業生や地元の住民に愛され続けるだろうことは想像に難くない。

平成7（1995）年に県指定有形文化財に指定されたこの美しい校舎を未来へと守り伝えていくため、文化財課では毎年秋に一般公開を行ってきた。過去2年連続で、台風、新型コロナウイルスにより中止を余儀なくされ、今年度は、新しい活用の形を模索中である。この学び舎が纏う華やかなパワーが、コロナの憂鬱な空気を吹き飛ばしてくれないかと、願わずにはいられない。

※県立安房南高等学校旧第一校舎の活用事業については、詳細が決まり次第千葉県ホームページ等でお知らせいたします。

千葉教育 萩（No. 669） 令和3年9月2日発行

編集・発行

千葉県総合教育センター（代表）酒井 昌史

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13

TEL 043-276-1204

URL <https://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所

千葉市療育センター いずみの家

〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3

TEL 043-216-2465